

いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

ワクチン接種が遅れています。少なくとも1回目の接種をした人の割合は、5月25日時点で人口の2.9%です（イスラエル63%、英国56%、米国49%）。

先月号で訴えたように、国産ワクチンのないことも問題ですが、それだけではありません。

第一に、ワクチン承認が遅かったことです。日本では、昨年12月18日にファイザーのワクチンの承認申請が行われ、2月14日に承認しました。

他方、英国は昨年10月から審査をはじめ、12月2日に承認しています。

ただ、これは安全性確保のため改めて日本人の臨床試験を実施したことが大きく、理解はできます。ファイザーの臨床試験における被接種者のアジア系の割合は4.2%に過ぎず（モデルナ4.4%、アストラゼネカ2.6～5.8%）、これら国際治験の結果だけでなく日本人のデータを見極める必要がありました。

第二は、ワクチン接種の大規模会場の確保が遅かったことです。これは弁解の余地はありません。

英国は、すでに昨年の夏から準備をしていました。ウェストミンスター寺院も接種会場になっています。他方、菅政権が大規模会場の確保に取りかかったのは、今年の4月です。

第三に、接種要員が足りません。これも遅すぎました。英国では、これも昨年の夏から要員確保のために必要な法改正に取りかかっています。その結果、同10月には接種資格のない人も、一定の訓練を受ければ接種を行うことができるようになりました。医学生、理学療法士等、さらには医療経験のない人まで、ワクチン接種を行えることにしたのです。

他方、我が国は、未だに「医師法」等により医師、看護師、歯科医師しか筋肉注射を打つことができません。

結局、安倍・菅政権は甘い見通しのまま、従来の風疹の追加接種などとまったく同じことをやってきたのです。与野党問わず、今後の危機管理の反省材料にすべきです。